

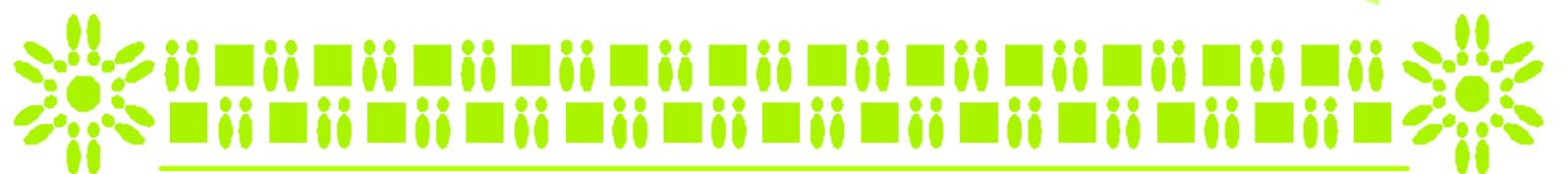
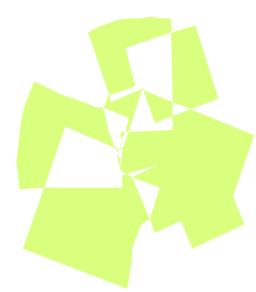
第 61 回

日本脈管学会総会が

10月13日(火)～15日(木)に
仙台国際センターにて WEB 開催
されます。

当院からは、

血管外科センター長 今井 崇裕 先生、
看護部 黒瀬 満梨奈 看護師が
ライブ配信にて学術発表をされます
のでご紹介します。





第61回

日本脈管学会総会

超高齢社会における 脈管学の統合的実践

会期 2020年
10月13日(火)~15日(木)

会場 仙台国際センター

会長 下川 宏明 (東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学)
副会長 齋木 佳克 (東北大学大学院医学系研究科 心臓血管外科学分野)
後藤 均 (東北大学病院 総合外科(血管外科))
高瀬 圭 (東北大学大学院医学系研究科 放射線診断学分野)

【事務局】

東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1
TEL:022-717-7152 FAX:022-717-7156

【運営事務局】

日本コンベンションサービス株式会社 東北支社

〒980-0824 仙台市青葉区支倉町4-34 丸金ビル6階
TEL:022-722-1311 FAX:022-722-1178 E-mail:jca61@convention.co.jp

<https://site2.convention.co.jp/jca61>

パネルディスカッション7 「下肢静脈瘤の適正治療」

当院における血管内塞栓促進用補綴材 VenaSeal™ closure system による下肢静脈瘤治療の短期成績

今井崇裕* Takahiro Imai

黒瀬満梨奈** Marina Kurose

* 西の京病院血管外科 Department of Vascular Surgery, Nishinokyo Hospital

** 西の京病院看護部 Nursing Department, Nishinokyo Hospital

[抄録]

【目的】 2011年以降、血管内焼灼術は下肢静脈瘤の標準術式となった。2019年、新たにシアノアクリレートを用いた血管内塞栓術が保険適応になった。2020年1月、当院では国内で2番目に血管内塞栓術を開始した。新たに開始された本治療の短期成績、安全性など当院の成績を踏まえ、下肢静脈瘤治療の適応と治療法の選択基準について報告する。

【方法】 2020年1~4月に一次性下肢静脈瘤で血管内塞栓術を施行した18例26肢を対象とした。治療標的血管は大伏在静脈と小伏在静脈とし、術中は瘤切除術を併用せず、術後に弾性ストッキングは使用しなかった。検討項目は解剖学および臨床学的検討、安全性として術直後、1週間後、1ヶ月および3ヶ月後に調査した。解剖学的検討は治療標的血管の閉塞率とし超音波で評価した。治療血管の閉塞は「合流部から5cm未満の血流領域」、再疎通または治療不成功は「合流部から5cmを超える開存領域」と定義した。臨床学的検討はVASによる術後疼痛、静脈臨床重症度スコア（VCSS）、AVVQを使用したQOL、安全性とした。

【成績】 治療不成功例は2名で全治療標的血管の閉塞率は92.3%であった。治療直後の痛みは軽度でVASの平均値は 0.6 ± 0.7 であった。VCSSはベースラインの平均値 2.1 ± 1.3 から1ヶ月で 0.1 ± 0.2 へ改善した。AVVQはベースラインの平均値 8.0 ± 9.0 から1ヶ月で 4.4 ± 6.1 へ改善した。有害事象は静脈炎、過敏症、血腫の流出の各1名で計3名であった。

【結論】 血管内塞栓術の術後3ヶ月の解剖学および臨床学的項目および安全性について検討した。結果は良好で術中TLAが不要であることや治療器本体が不要であることなどから、新たな下肢静脈瘤治療の選択肢として普及が予想される。

下肢静脈瘤治療における看護師の役割 -血管内塞栓術でどう変わったか-

○黒瀬満梨奈¹、今井崇裕²

1 西の京病院 看護部 2 西の京病院 血管外科

抄録

2011年より下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術が国内で保険適応となった。現在、当院では下肢静脈瘤に対してレーザーやラジオ波による伏在静脈の治療と stab avulsion 法による瘤切除を標準術式としている。また2019年より VenaSeal を使用した NTNT ablation が国内で保険適応となり、当院では本年1月から治療を開始した。この治療では stab avulsion による瘤切除を同時に行わないことが一般的であるため、術後下肢の巻き上げや弾性ストッキングによる圧迫は不要である。加えて血管内焼灼術のように熱による組織へのダメージが少ないため、術後の疼痛や痺れも少ないと言われている。以上の理由で、より低侵襲であるため今後この治療の普及が見込まれている。今回、血管内焼灼術と VenaSeal を使用した NTNT ablation の術後看護のポイントについて比較検討した。対象は2020年1月から下肢静脈瘤で血管内焼灼術と VenaSeal を使用した NTNT ablation の治療を受けた患者各18名。検討項目はVASスケールを使用した術後疼痛、痺れの有無など患者の訴えに対する聞き取り調査内容。内出血の程度やアレルギー反応の有無に関する術後外観上の変化とした。上記内容につき、術後看護のポイントについて検討した結果を報告する。